

「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」検討・準備グループ(第4回)
新テスト実施企画委員会(第1回)
議事概要

日 時：平成 28 年 9 月 30 日(金) 10:30-12:30
場 所：文部科学省 4F 会計課会議室
出席委員：岡本主査、沖委員、川上委員、東島委員、平方委員、宮本委員、
安井委員、木村委員、島田委員、清水委員、林委員、福永委員、
前川委員、吉田教授(オブザーバー)

【資料説明】

- 伯井理事より参考資料 2 に基づき「大学入試センターにおける新テストの検討・準備態勢について」について説明
- 橋田室長より参考資料 3～5、資料 1～2 に基づき高大接続改革の進捗状況について簡単な概要、記述式のセンター・大学共同採点の場合の主な論点への対応等についてについて説明
- 伯井理事より資料 3、参考資料 6 に基づき補足説明

【自由討議】センター・大学共同採点の場合の主な論点への対応等について

福永委員：大学共同採点について、大学入試は前期・後期があるが、前期試験のところ、たぶん採点をするということになると思うが、後期試験の場合は、前期試験で採点した結果をそのまま利用するイメージなのか。あるいは、後期試験の方は、改めて後期試験を担当する大学が採点するのか。

橋田室長：後期試験を担当する大学が採点する。

福永委員：2回採点するということか。後期試験はかなりタイトになる。

岡本主査：その辺はどのように利用するかにもよると思う。おそらく、受験生が前期・後期は違うので、試験が違うのだから採点基準が異なってもいいと思う。

福永委員：タイトというのは、時間的にタイトという意味。

岡本主査：それはすごく良く分かる。どこまで採点するかだ。個人的な意見だが、私は数学なものだから、どうしても数学ばかり考えてしまうけれど、数学ならば形式面と内容面はほとんど「≒」の関係にある。例えば、大学は(段階別表示で)ABCがあったら、Aの人を取ることも、ABCを点数化して判断することもできる。Aを何点にするかは大学

が決めること。それもある意味採点行為だと思う。情報開示請求があった時も、大学ごとに基準を決めているのであれば説明可能であると思う。

国立大学は、個別選抜もやっているなので柔軟に考えれば色々な可能性がある。もう一つ、10年経ったら機械の精度も大学の精度も上がると思う。そう意味では、色々な進展があり得ると思う。肯定的に考えなければと思う。

川上委員：なるべく多くの大学が記述式を採用しようとなると、マークと記述の比率が重要になる。記述式の量が少ないと、もう一度、大学でも出さないといけなくなる。そうすると、負担との問題で、どちらを採点しようかという話になる。記述式は後期試験に代用できるくらいなら良いと思う。公立は規模が小さいのと、中期日程もあり、時間的制約がある。記述式を採用できるだけの質があり、大学が出さなくていいほどの量があるか。資料1にあるように、国語80字2問、数学3問は確定なのか。

橋田室長：これで決まったわけではない。民間との関係で、実際にどれくらいの時間がかかるかといったことや、どういう出し方があるかを考えたい。また、センターで一括採点だと、50万人規模になる。③にあるように、20日間程度かけなければならない。一方で、答案のみ大学に送付する場合だと、ある程度ボリューム感が出せる。その場合も、試験時間、問題構成との関わりの中で、文字数を考えたい。

岡本主査：今までのことで確認したい。仮に大学が採点した時に、大学がどのように採点したのかをフィードバックしないと、データが蓄積しないと思う。データを蓄積していかないと精度が上がらない。何十万のデータが蓄積されれば精度が上がる。

林委員：模範解答を収集するのか。

岡本主査：そういうことではなく、こういう問題にどういう点をつけたかといったようなイメージ。

林委員：良く分からないが、100人の受験生がいたら100人の答案をセンターに返すという意味か。

岡本主査：結果だけで良いのではないか。答案を返してもいいが、答案はセンターが持っている。

林委員：大学には本人が書いた汚い字のものを送ってこられて、つまり、答案自体が送られてくるというイメージではなく…

岡本主査：そういうイメージでしょう。

林委員：つまり、それぞれ50点とか60点と採点したものを…

岡本主査：私のイメージはトータル。具体的にはこれから考えていけばいいと思う。

林 委員：先生が仰るノウハウということはつまり、例えば、行列についてはほとんど配点してない大学とか、色々なことがあるのを、トータルスコアだけでは分からないのではと危惧しています。

岡本主査：私が言いたいのは、何らかの形でフィードバックする必要があるのではないかということ。

東島委員：同じ問題で、前期・後期で食い違った採点結果が情報公開で出てきたらまずいのではないか。

橋田室長：先生のご懸念のところだと思うが、資料 2 の 3 頁、3 ポツに、現時点で整理しているのは、採点基準を示しながら、各大学間で顕著な差が出ないように配慮をしたい。もう一つが、受験生にとっての公平性というのは、出願区分ごとの合否判定。同じ出願区分内を取ってみれば、その限りにおいての公平性は担保されるというところになる。一方で、採点基準については具体的なものを示していく。そのところは、世の中の的にも理解が必要。都立高校でもそういう形で採点している。

宮本委員：都立高校では、記述の問題は、都教育委員会として、採点の基準は定めてある。ところが、部分点等については、各学校で適切に定めるとなっている。各学校の校長の裁量で高校ごとに採点基準を決めている。同じ問題でも、レベルの低い高校は採点が甘いが、レベルの高い高校は採点が厳しい。情報開示に対しては、答案のコピーを請求者に対して返している。中学校や塾から、同じ問題なのに、採点結果がなぜ違うのか聞かれるが、「高校の中で統一基準にしているので公平である」と返答しているが、それに対してクレームは来たことはない。なので、2 回目からは「あその学校は厳しめに採点するから、丁寧にやらないといけない」といった指導が入る。それで不公平というクレームは来ないので、同じような考え方でいけばいいと思うし、高等学校の入試ではどこもそういう形でやっているのだから、それで文句が出ることはないと思う。

東島委員：採点基準も各学校公表しているのか。

宮本委員：大まかなところの採点基準は各学校公表している。細かいところは公表していない。

東島委員：大学の数学とかは公表してないですね。

岡本主査：していない。解答の解説もしてない。採点基準は全部書き出せばほとんど紙は真っ黒けになってしまう。それから、少し言いよどんだの

は、例えば、センター試験の数学なら数学で、記述式だけで合否が決まっているわけではない。他のものも加わるわけで、そこがそんなに大きな論点になるとは思わない。記述式だけで、500 点中 200 点とかだと話は別だが。

沖 委員：今の話で言うと、今後、5～6 年後に国語で 200 字が導入されたら評価の基準は多様化すると思うが、40～80 字で極端にバラついていてはおかしい、問題そのものに問題があるだろうという話が、私大連の議論であった。そもそも論としては、大学ごとにバラバラに採点するのかという話があるのだが、その結果として出てきた評価が、80 字程度でそんなにバラつくのであれば、記述式そのものに問題があるのではないかという話になりかねない。信頼性の話になる。

それで見ると、バラついてはおかしい。数学は別として。

資料 1 の 5 頁にある、「大学のリソースを活用」「大学間コンソーシアムを活用」というのは国立大学を想定しているのか。私立大学だと、多くの大学が記述式のノウハウを持っていない。ノウハウを持っていないところでコンソーシアムを組む意味があるのか。また、例えば大規模私学では記述式を出してノウハウがあり、周辺の小規模私学はノウハウがない場合、全部集まって、大規模大学は何万人と受験生がいるので、そういう答案を小規模私立大学にやっていただくのかという話で考えるのか。国立大学のイメージなのかをはっきりさせないと、私立大学は規模を問わず良い印象を与えない。

先ほどから出ている前期・後期でいうと、私学は、例えば早稲田大学は、12,000 人ほどセンター試験のみで受験している。実際には一部を使うとか、様々な受験生を入れるともっといるが、国語と数学が採点の対象となるのは 12,000 人で、併願を除くと、実際の答案数は 8,000 枚弱になる。5～10 日で採点するとなると、センターに段階別評価をしてもらい、それを利用しないとできない。この先、別のやり方や、センターのみで良いのだろうかといったことや、センター試験を一次試験として使わせてもらい、二次試験と組み合わせる等、大幅に入試制度を変える必要があるというのが、記述式の採点の提案を受けたときの率直な感想。

大学間コンソーシアムも、あちこちにあると思うが、国立と私立が一緒になってやるというのは、また違う趣旨になると思うので、できるというのなら情報としていただきたい。

橋田室長：あくまで例示としての案。感触を探った大学では、国立大学ではあ

高大接続システム会議では、評価テストは識別力の高い、難関大学でも使える試験としてスタートしていたのだが、現実的なことを考えると、質自体が当初から変質してきているので、今一度、共通テストと個別試験の根拠を示すべきだと思う。

岡本主査：大学の二次試験とセンター試験は、解答形式は異なるが問題の質は同じだと思う。マーク式を論述式にしたら機能も結果も違うことになるが。

清水委員：数学では、数Ⅰで40万人が受ける作題がなされる試験なので、数Ⅱ、数Ⅲまで入ったものとは違う評価がされると思うし、記述式の場合には、作題の仕方も違うと思う。それをアドミッションポリシーに反映させるとき、反映のさせ方が違ってくるのではないか。大学によって点数が違っていいのかという議論の中で、公平の問題ではなく、公正の問題だと思う。同じようにということではなく、ポリシーに基づいた設計と、試験に基づいた設計なので、公正に作られていることをどう示すかが重要となる。

岡本主査：今日はあまり議論していないが、資料2との関係もある。

東島委員：評価テストは客観的データが提供され、その数値を各大学がアドミッションポリシーに基づき選抜に活用すると思っていた。ここにきて記述式自体にアドミッションポリシーが入り込んできた。

岡本主査：センターの問題は大学の先生が作っている。つまり、大学が作っているわけで、私はそこに信頼を置いている。そこが一番の原則だと思う。

東島委員：情報公開の開示請求では批判は出ると思う。

岡本主査：批判は出るし、開示請求も出ると思う。

前川委員：記述式を人海戦術でやるのは違和感がある。10年後、この分野で日本は遅れる。世の中の流れは機械。機械の採点も、せめて研究だけは進めてほしい。

橋田室長：その点については、36年度以降、C B Tの導入も別途宿題になっていて、36年度導入するためには、33年度初頭には方針を新たに示さなくてはいけない。この点についてはセンターの方でもフィージビリティの検証事業をやっているが、引き続き36年度以降を目指して、C B T含めたシステム化は検討していきたいと思う。

岡本主査：フィードバックの方向にしないと、データは埋もれる。

木村委員：大学で使う側としては結構タイト。資料1の11頁にある別紙4にある3形式から、大学が選べるのか。

橋田室長：この3つは、場合によっては組み合わせもあり得ると思う。大学と

しては、こういう形であれば使い勝手がいいとか、こういう組み合わせであれば使い勝手がいいといったものがあれば是非教えていただきたい。

島田委員：AO・推薦では記述式を使わないところもあると思う。

橋田室長：できるだけ使っていただける方策を検討しているが、最終的な整理をどうするかは今後詰めていかななくてはならない。

岡本主査：それは全体の議論で決めていくことで、上から使うとか使わないとか決めることではないと思う。大学の使い方はいろいろあると思う。今でも、国立大では、センターのリスニングや、教科の使い方はいろいろある。

平方委員：CBTは諦めて、記述式を入れることになったと思うが、記述式を入れるときに、32年度からは、自動採点が可能な文字数で検討したのだと思うが、今の段階で自動採点なしということなのか。

橋田室長：自動採点は、今の技術水準では難しいということは、今までで議論させていただいた。ただ、採点に当たっての採点支援ということで、クラスタリング等の技術的な実用可能性の検証や、民間との関係で、民間の技術で採点の効率化に使える技術をヒアリングしたりしている。29年度初頭に実施方針を示すという観点では、AIでの自動採点は今の時点では難しい。ただ、今後とも中長期を見据えながら、民間との意見交換は進めたい。

平方委員：文字数を減らしても無理なのか。29年度は無理かもしれないが、4年後にやるとか、目標を定めないといつまでたっても実現できない。

橋田室長：採点方法検討チームの方でも、専門家や民間の方に来ていただき、引き続き検証を進めていく。対外的にどう示すかは、検討を続けたい。

平方委員：記述式の採点で、アドミッションポリシーを活かす採点は、前提としてそういう風に採点できる問題を作る必要があると思うが、できるのか。

岡本主査：今までのセンターの問題を見ているとかなり質の高い問題を出題してきているので、できるのではないか。前川先生と平方先生が言っていることは、方向性を示すという点では同じ。「今はこうだけど、将来はこうなる」というのが見えるようになれば皆が納得すると思う。

東島委員：大学と共同採点するオプションと、それ以外のオプションがあるが、どういう風に収束させるのか。

橋田室長：参考資料3の30頁で言うと、公表資料で3案示させていただいており、案1と案2は検討・準備グループでもかなり議論してきていたが、案3はまだ十分できていない。案3については、具体的

に示したというところ。各団体との関係では、この3案を基に、意見をいただいているが、今日示した資料1の別紙4では、③の上の方のイメージは案1に近いイメージになっている。案3'や案4といったものも出てくるかもしれない。大学にとっても高校にとってもいい形にしていければと思う。その中で、どういう組み合わせがいいかは、またご議論いただきたい。

東島委員：前川先生の方向性で考えるのであれば、かなり制約があるし、人が採点するのであれば一つの方向性が示せると思う。どちらが現実的かは、私には判断ができないが、2つの心配がある。①どっちつかずだと、今の中学生が将来不安になる。②国立大学は今大変厳しいので、教育・研究・人材育成のうち、教育に力を注ぐべき。選抜するのが目的ではなく、教育することが目的なので、選抜はなるべく簡単にして、入学した学生を育成してほしい。あまり教員の試験への負担を大きくしたくない。

前川委員：民間を使って、人海でやる方法が成功したら、システムとして固定化すると思う。そうすると自動採点技術が進まなくなるので、遅れてしまう。それはよろしくないので、せめて裏でリサーチだけは続けて実現可能になれば切り替えるようにしてほしい。

東島委員：人工知能で採点は無理だということか。

前川委員：制度によると思う。私も専門家ではないが、例えばアメリカで成功している制度では、日本人にはだめだと思う。リサーチを続けていないと、今のセンターのように制度が固まってしまい、誰も変えたくなくなる。

【資料説明】

- 橋田室長より資料4に基づき「新テストにおける英語の資格・検定試験の取扱いに関する主な論点」についてについて説明
- 伯井理事、米澤部長より資料4別紙1に基づき補足説明

【自由討議】新テストにおける英語の資格・検定試験の取扱いについて

吉田教授：今説明していただいたことは、アメリカでもこういう形でやっており、形としてはよくできているが、問題はどのテストをどのような基準で認定するか。資料4の別紙2の3頁にある、CEFRのA2、B1は、単純に比較すると、英検で言うところの準2級、2級のレベルである。高校の卒業レベルの目標としては、文科省としては準

2 級にしているが、現実には高校卒業時点で準 2 級を取れる高校生は 30% 位しかいないので、現実問題として A1 が多い。逆に、上智大学では TEAP を入試に活用している。センター試験だと、簡単すぎて差がつかないため、センター試験よりレベルの高いところが測れていない。民間ではほとんど全てのテストが B2 レベルまで測っている。民間のスピーキングとライティングに組み合わせるのであれば、センターでもリスニングとリーディングは B2 レベルまでにしないと歪になる。一貫性が取れないので、そこを併せる工夫が必要になる。そこを考慮して、センター試験を考えなければならない。

学習指導要領では、英語コミュニケーション I が必修。選択でコミ II・III がある。A2・B1 はコミ I の範囲。コミ II・III はもう少しレベルが高い。かなり多くの高校がコミ II まで採用しているので、B2 まで測れるようにしないと、高校を卒業してくる学生の英語力が測れない。

参考資料 3 の 33 頁にある、民間の資格・検定試験とセンターを組み合わせる場合、民間は 4 技能を前提としており、スピーキングとライティングだけ受験可能という試験はない。それだけ別途作ってもらうことは可能か。4 技能を併せた中から 2 技能を取り出すのであれば、すでに標準化もできているから、可能だと思う。そうした場合、問題となるのは費用。民間 4 技能はそれなりにお金がかかる。それに加え、センター試験もお金がかかる。民間 4 技能とセンター試験両方お金を払うと、かなりの金額になる。そうした時に、民間の業者とどういった相談ができるか。

選定基準だが、もちろん学習指導要領の内容に合わせるのは当然なのだが、英語コミュニケーション I の範囲までにするのか、コミ II まで含めた範囲にするのか。どのように認定するかで変わってくる。そのあたりのことも考慮する必要がある。

英語の場合は CBT 化が進んでいるが、採点は人海が中心で、自動採点はまだ十分に進んでいない。発音などの形式面はある程度自動採点が可能だが、最終的には人の目を介さないといけない。いずれにしても民間がやることで、民間の方が技術の進歩についていくのが早い。将来的にはかなり進むと私は思う。

それと、費用の問題だが、民間の資格・検定試験はお金がかかる。センターについては、私はわからないが、採点者に払うお金は、大学の教員がやるとお金がかからないのか。それとも民間業者に委託

するからお金がかかるのか。センター試験自体の費用がどれくらいになるのか全く見えてこない。民間 4 技能＋センター試験のお金を払うと、かなり高額となるのではないか。民間とどのような調整をするのか。資格・検定試験に払う費用と、センターに払う費用で、受験生はどれくらい払うことになるのか。

橋田室長：コストは今の時点では示せていないが、当然記述式の問題数・文字数といったことや、採点が民間か大学かでも変わってくるが。結局どれくらいかかるのか、受験生負担はどれくらいか、大学との関係を含めて考えたい。記述式、英語を含め、精査して示したい。

吉田教授：比較しながら英語の費用は考えないといけない。単純に安ければいいというものではないという印象を持っている。

結果の活用は、各大学で違うのか。一番の問題は、1 点刻みの使い方をする、受験生は複数回試験があったら、全ての試験を受験する。英語の試験を複数回行うならば、1 点刻みにならない方法を取らないと受験生の負担は増す。点数の使い方についても十分考えないといけない。

複数の民間の資格・検定試験で、同じ点数で同じ能力を測れるのか。要するに、点数の互換性だが、1 点刻みだとできない。ただし、バンドでいくと、一定程度はできる。唯一の基準である C E F R の基準ならある程度比較できると思う。1 つの試験なら問題ないが、複数の試験が入ってくると必ず互換性の問題が出てくるので、そういう点を考慮しないとけない。

東島委員：最後の点は、センターの説明にあった英語テスト管理センターであれば、学生によっては複数種類の資格・検定試験を受験すると思う。そうすると、複数試験を比較できるのではないか。

吉田教授：今現在、換算表というものはあるが、業者が自己申告しているものであって、すべての試験を同じ人が受けているわけではないため、どこまで正確かというのが分からない。唯一の基準が C E F R。学習指導要領と、C E F R を併せて、細かく評価できるようになれば管理しやすくなると思う。

岡本主査：バンド刻みしかないということか。

福永委員：私は長崎県なのだが、離島がたくさんある。受験機会の均等性も考慮に入れてほしい。

吉田教授：英検や、G T E C 等、色々な団体が C B T 化しているが、セキュリティーの問題など、コンピュータ施設にかなり課題や制約がある。全国的に施設・設備を整えれば C B T 化は楽になる。インフラ整備を

してもらわないと。それができれば意外と早くできると思う。ペーパーだと限られたことしかできない。

岡本主査：1点刻みと、段階別のバンド方式だと、セキュリティーレベルも違ってくると思う。

東島委員：センター試験の費用は、リスニングが多いのか。

伯井理事：センター試験実施費用 100 億円のうち、リスニング試験で 15 億円かかっている。一人当たり、2,000 円の計算。リスニング導入時、2,000 円値上げした。

角田課長：一言だけ、申し訳ございません。前半の議題の記述式の採点について、私の方でその時申し上げればよかったですけれども、各大学の状況、今、国立・公立・私立の団体の会議に出席いたしまして、個別にお伺いしております。その状況だけちょっと説明させていただきます。

一言で言いますと、大学によってかなりご意見違っておりまして、それぞれ体制とか、各学部の構成によってご意見違いました。

基本的に、改革の方向についてはそれぞれご理解をいただいて賛成をさせていただいておりますけれども、一方で今日お話しのございました、教員の負担ですとか、学内で協力を得られるか、時期的なスケジュールの中で採点が間に合うのかといったことについて不安をお持ちでした。

また、理系の単科系の大学では、国語の採点についてはどうするのか、体制がないといったことや、逆に公立大学の中では、看護系の単科大学などが多いので、そういった大学では数学の採点はどうするのかといったことがあり、それぞれ抱えてるリソースによって自大学で採点する場合に、どういう対応していくかといったことについて、ご不安を仰る方もいらっしゃいました。

また、求めている問題の幅についても、できるだけセンターの方で段階別表示までやってほしい。そういう意見を仰る大学もいらっしゃいますが、また一方で、大学の方で採点をするのであれば、採点の裁量についてはできるだけ大きくしてほしいというご意見もあって、ここもかなり大学によって考え方が違うという状況。さらに本来、記述式については二次試験で出すべきではないかということで、大学で合意を取って二次試験で出すという方向も考えていく、という意見もありまして、様々。

さらに私立大学の方にいろいろお話を聞いてきましたが、かなり状況が違って、かなり先行して改革を進めている大学もございますので、

そういった中で、あまり一つの方向性で画一化するような対応にしないでほしいというご意見もありましたし、また私学の場合は国公立と違いまして 2 月 1 日以降すぐに入試が始まるということで、そういったスケジュールの中で出来るだけ私学も利用できるような入試にしてほしい、こういうようなご意見もありました。

最初に申し上げたように、それぞれかなり違うご意見の中で、先生方のご意見も頂きながら、各団体に対する説明も途上でございますので、そういった中で話を聞きながら結論を詰めていく必要がある。

以上